

安来節全国優勝大会

ひびけ
安来節

「出雲名物 荷物にならぬ

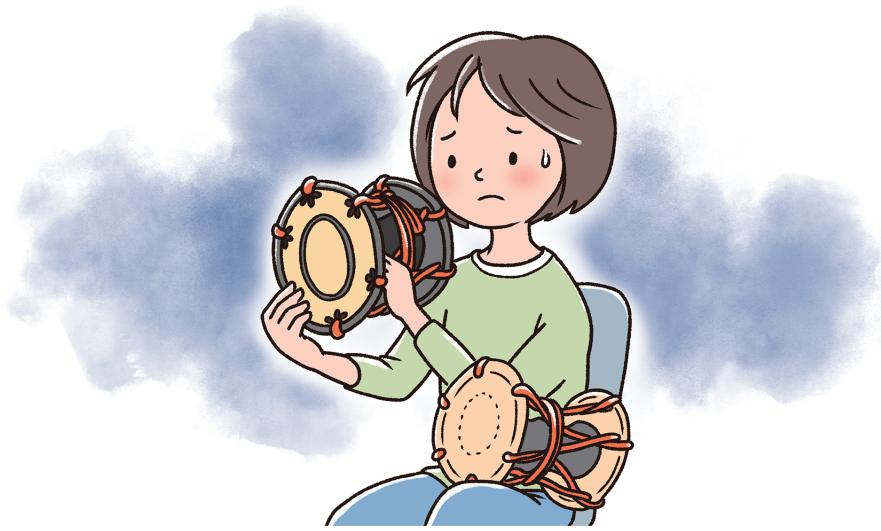
聞いてお帰れ 安来節」

わたしは、友達ともだちの歌う安来節やすぎぶしに耳をすませ、その調子に合わせてつづみを打ち続つづけます。

わたしの住すんでいる安来市やすぎは、島根県しまね内はもちろん、日本全国でも有名な民みんよう、安来節やすぎぶしが生まれた町です。

安来市やすぎでは、毎年八月に、「安来節全国ゆう勝大会」という安来節やすぎぶしのうで前まえを競きそう大会があり、全国で選えらばれた人が、日ごろの練習れんしゅうの成せい果かを、たくさんたくさんの人の前で発表はつぷつします。ほかに「安来節千人おどり」といって、たくさんたくさんの人が安来節やすぎぶしに合わせておどるコンテストも開ひらかれます。

わたしが初はじめて安来節やすぎぶしと出会あったのは、小学校三年生の時、おばあ



さんと行った「安来節全国ゆう勝大会」でした。そこで、大師範とよばれる、安来節がとても上手な人の歌を聞き、その心にひびく歌声におどろきました。

（わたしも、大師範さんのように上手になりたい。）

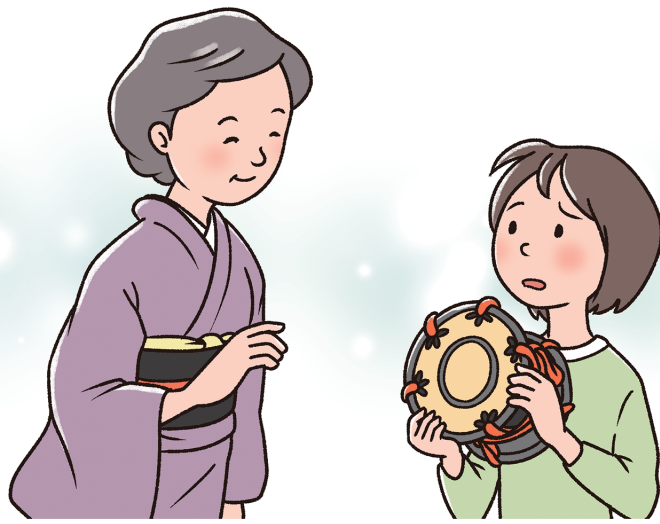
わたしは、すぐに、お父さんにたのんで、安来節の子どもの練習会に申しこみました。

安来節には、歌と三味線、つづみ、おどりと銭太鼓があります。練習会でそのことを知ったとき、わたしは、つづみをやろうと思いました。なぜなら、つづみはそれまでさわったこともなかった楽器だったし、

（手でたたけばかんたんに音が出る。）
と思ったからです。

しかし、練習を始めて、わたしは自分の考えがまちがっていたことに気が付きました。つづみは、わたしがたたいても思ったようにいい音が出なかつたのです。

また、安来節のつづみは、手に持つつづみと、ひざとひじではさむ



つづみの二つでえんそうします。きちんとはさんでいないと、つづみが落ちてしまうのです。

わたしは、なんとか上手じょうずになろうと、練習会が始まる時こくよりも前に出かけていって練習しました。しかし、思うような音を出すことはできませんでした。それに長い時間練習をしたので、つづみを持つ手やはさんでいる足がいたくなってしまうました。

その様子を見ていたお母かあさんが、「いやなら、やめてもいいんだよ。」

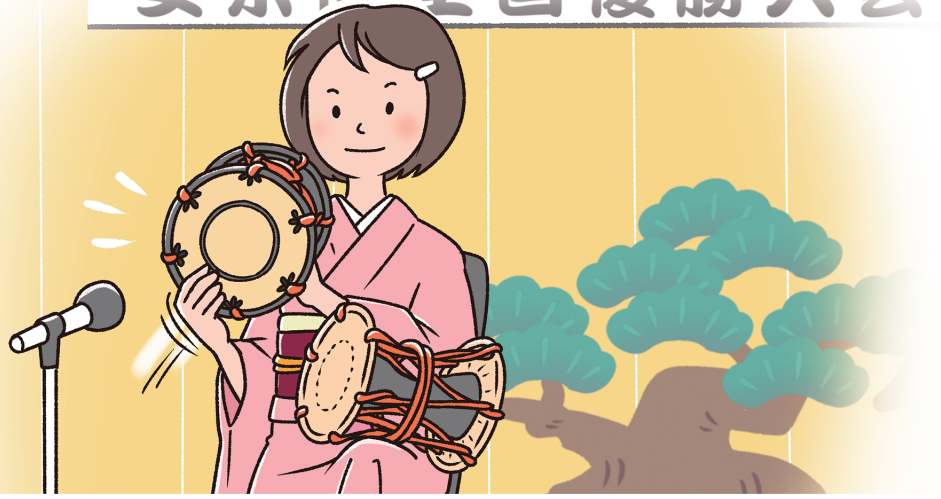
と言いました。わたしは、どうしようかなあ……と、まよってしまいました。

なかなか決心がつかなかったので、次の練習会の時、思い切って先生に相談しました。先生は、

「あせらなくてもいいんだよ。」

と言われました。わたしは、はっとしました。

それから、わたしは毎日のようにつづみの練習を続けつづました。練習を始めて一か月たったある日、ついに、ポン、といい音が出ました。



「やったあ。やっといいい音を出すことができた。」
わたしは飛び上がってよろこびました。

その後、さらに一年間練習をして、歌に合わせてつづみが打てるようになりました。わたしの今の目標は、今年の「安来節全国ゆう勝大会」の子どもの部で、ゆう勝することです。

そして、いつかおばあさんといっしょに聞いた大師範のようになって、たくさんの人に、すばらしい安来節を聞いてもらいたいと思っています。

(作 島根県道徳教育研究会／絵 イラストメーカーズ・池和子)

- 1 「わたし」は初めて安来節を聞いて、どんな気持ちになっただろう。
- 2 先生に「あせらなくてもいいんだよ。」と言われたときの「わたし」の気持ちを考えてみよう。